

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ギフトド南二軒屋		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		～ 2026年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	59	(回答者数) 39
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		～ 2026年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援計画の作成にあたって、アセスメントをもとに、ご本人やご家族のニーズを客観的に分析し、具体的な支援内容を職員間で話し合い、実施しています。	ひとりひとりの特性や発達段階に応じて過ごせる環境づくりに努めています。	関係機関の連携をより深め、より利用児童や保護者様の生活に寄り添った支援の充実を図ります。
2	支援開始前の打ち合わせや週1回の会議を欠かさず行い、職員間で支援状況を共通理解した上で、チームとして一貫性のある支援を提供しています。	発達支援室のスペース確保のため、活動に合わせて机やパーテーションを移動させるほか、落ち着ける場所として相談室を開放するなど、環境上の配慮を行っています。	支援終了後の振り返りが翌日に持ち越されないよう、朝礼や昼礼での共有を仕組み化し、即時性の高いチーム連携を維持します。
3	職員の共感的な姿勢や、日々の支援記録・SNS・電話を活用した迅速な情報伝達に努めています。	毎月の会報を配布し、SNS・ホームページでの発信を通じ、活動概要や行事予定、自己評価結果を保護者様へ周知しています。	避難訓練や安全計画について、より多くの保護者様に内容を深く理解いただけるよう、共有方法を工夫し透明性を高めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	玄関前の段差や階段に手すりがないなど、身体的な介助を必要とする利用者様や保護者様への負担となっています。	2階に事業所入口があり、一階からの連絡手段（インターホンなど）が現在は設置されていない。	階段への手すり設置など、可能な範囲での環境改善を検討します。介助が必要な方が事前連絡しやすいような仕組みを作っていきます。
2	職員のスキル向上のための動画撮影や個人情報の取り扱いにおいて、一部で配慮の不足や、書類の渡し間違いといった物理的な取り扱いミスがありました。	告知は行っていたものの、対面での説明が不十分であった。書類のお渡し時の確認の不足。	保護者をはじめ関係各所へ十分な説明を行い、必ず事前に同意をいただく手順を遵守・徹底します。支援後の振り返りや研修の目的を明確に伝え、保護者の理解を得られるよう対面でのコミュニケーションを強化します。お便りの配布時など、書類の受け渡しにおけるダブルチェック等の確認作業を仕組化し、誤配を防止するよう努めます。
3	保護者様や利用者様へ提案したホームプログラムの実施状況の確認がおろそかになることがあります。	提案後経過を追うための記録シートや、定期的に確認する共有の仕組みがまだ標準化されていない。	進捗確認のための記録シートを作成し、保護者様と職員が伴走して支援できるような仕組みを作れるよう努めます。